自　己　評　価　表　（最　終）

愛媛県立今治北高等学校（大三島分校）

学校番号（１６）

教育方針	地域と生徒の実態に即した教育を推進することを通して、地域を愛する態度や地域課題の解決に向けた実践力を養うとともに、情報化・国際化社会を生きるために必要な力を身に付けさせ、心身ともに健康で地域の核として活躍できる人材を育成する。	重点目標	１　自主学習の習慣を身に付けて確かな学力の充実を図る。 ２　誠実な心と礼儀正しい生活態度を養う。 ３　心身の鍛練に努め、健康でたくましい人間性を育てる。 ４　美しい学校づくりを通して公共心の涵養に努め、愛校心の高揚を図る。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	わかり易い授業の工夫	年間２名以上の研究授業を行ったり、授業公開・相互参観期間を２週間以上設けたりすることで教員相互の指導力の向上を図るとともに、ＩＣＴを積極的に活用した教育活動を実践する。また、生徒授業アンケートを実施し、満足度 90%以上を目指す。 Ａ：90%以上　Ｂ：89～85%　Ｃ：84～80% Ｄ：79～75%　Ｅ：75%未満	B	研究授業や授業参観は予定通り実施し、教員の指導力向上に努めるとともに、リモート授業を実施できる体制が構築できた。生徒へのアンケートでは良い結果が出たが、生徒自らが意欲的に取り組める授業を実践することが課題として残った。	研究授業や授業参観は次年度も計画的に実施し、引き続き教員の指導力向上に努める。また、ICT を活用した授業実践を進めるとともに、生徒が主体的かつ意欲的に取り組むことができる授業づくりに努める。
	指導内容の定着	年間９日の学習支援日を設けたり、個別に課題を与えたりするなど生徒の実態に応じた学習指導や学習への支援を行い、大学入学共通テスト等を見据えた進路実現に必要な学力を身に付けさせる。	A	学習支援日を考査期間中に効果的に実施し、生徒の自主的な学習を促し、学習習慣の確立に努めることができた。	次年度も学習支援日を効果的に設定し、生徒の苦手分野を克服させるとともに、学習習慣の確立を通して、進路実現に必要な学力を身に付けさせる。
	家庭学習の充実	効果的な学習課題を研究して家庭学習の定着を図り、課題の適切な評価を行う。また、考査期間中の学習時間調査や放課後学習会の実施を通して、考査期間中の平均学習時間４時間以上を確保し、学年末での成績不振者０人を目指す。	B	定期考査期間中の平均学習時間は３時間 36 分であった。期間全体を通して、１年生及び２年生Ｉ型の学習時間を確保することが課題である。	引き続き平均学習時間４時間以上を目標に取り組みたい。また、家庭学習を習慣化させるよう、適切な課題を出し、適切な評価につなげたい。
生徒指導	適切な学校行事	学校行事の精選を図るとともに、本校の伝統である特色ある学校行事を充実させる。また、県内最多の 45 回目の野球応援優秀校受賞を目指す。	―	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止・縮小せざるを得ない行事があったが、実施した行事は充実させることができた。	新型コロナウイルスの状況を適切に把握し、生徒の安全を確保しながら学校行事の充実に努める。
	活力ある特別活動	すべての運動部と文化部の活動を充実させる。また、写真部においては、全国高等学校写真甲子園本戦出場を目指す。	A	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、活動の一部に制限が加えられたが、どの部も可能な範囲で充実した活動を行った。写真部は、全国高等学校写真甲子園本戦出場を果たした。	新型コロナウイルスの状況を適切に把握し、生徒の安全を確保しながらすべての部活動の充実に努める。
	基本的生活習慣の確立	少人数ならではの家庭的で温かい人間関係の中で、挨拶や節度ある生活態度に関するきめ細かな指導を実践し、皆勤率 50%を達成する。 Ａ：50%以上　Ｂ：49～45%　Ｃ：44～40% Ｄ：39～35%　Ｅ：35%未満	E	教員と生徒との人間関係は概ね良好であり、きめ細かな指導が実践されている。 皆勤率は 30.5%で目標値を達成することができなかった。	個々の生徒の発達段階に応じたきめ細かな指導を引き続き実践するとともに、家庭とも協力しながら皆勤率の向上に努める。

※評価は５段階（Ａ：十分な成果があった　Ｂ：かなりの成果があった　Ｃ：一応の成果があった　Ｄ：あまり成果がなかった　Ｅ：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進路指導	就職指導の充実	就職内定率100%を目標に、資格取得や学力定着のための個別指導や就職指導のより一層の充実を図る。また、内定後の社会人としての自覚を持たせる指導も充実させる。	A	就職希望者（２名）は希望の事業所への就職を決定した。商業科における資格取得指導をはじめ、各教科やホームルーム活動、総合的な探究の時間を用いて、社会人に向けた指導を充実させることができた。	各学年とも系統的な進路指導を行うことができた。引き続き、３年間の指導を通じてより良い職業観、勤労観をもつ生徒を育成するよう努める。
	職場体験活動の充実	１年生を対象としたインターンシップでは、社会に積極的に貢献できる人物の育成を目指すとともに、社会人としての自覚と責任を身に付けさせ、望ましい勤労観･職業観の育成を図る。	―	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、インターンシップを実施することができなかった。 様々な教育活動の中で、社会の一員としての自覚を身に付けさせることができた。	新型コロナウイルスの状況を適切に把握するとともに、地域の事業所の協力を得ながら生徒の安全を確保した上でインターンシップを実施することができるよう努める。
	個に応じた進学指導	一人一人を大切にした個別指導の充実を図り、進路実現に向けて主体的に取り組む生徒を育成し、国公立大学合格者２名以上を目指す。	B	長期休業中や放課後の補習、国立大学２次試験に向けた個別指導も充実させることができ、国立大学に１名の合格者を出すことができた。	大学進学希望者の基礎学力の向上を図るとともに、補習や模試を有効に活用して実践的な学力を身に付けさせるよう努める。
家庭・地域との連携	ＰＴＡ活動の活性化	学校活性化に保護者の協力を得るため、書面や電話を活用して様々な連絡を丁寧かつ確実に行い、情報交換を密にするよう努める。	A	学校行事の縮小や中止、PTA の会合の書面開催などにより大きく影響を受けたが、会長や評議員との協力体制は維持できた。	新型コロナウイルス感染症の状況を見て、可能な限り保護者と教職員との交流の場を設け、教育活動の活性化に努める。
	教育目標・経営方針の周知	分校報や分校通信、今治市の広報誌などを通じて情報発信に努めるとともに、一日当たりのホームページ閲覧数 250 カウント以上を目指す。 Ａ：250 以上　Ｂ：249～225　Ｃ：224～200 Ｄ：199～175　Ｅ：175 未満	A	各種メディアや市広報誌などに取り上げられ、効果的な情報発信を行うことができた。ホームページでは日々の分校生の様子を発信し､一日当たりの閲覧数が 675 と、前年と比べて飛躍的に増加した。	学校行事の実施に合わせて分校報や分校通信を作成し、分校の良さやその活動をより一層周知するように努める。特に中学生をターゲットにした情報発信の方法を検討し、実施する。
	学校評価の充実	教育活動全般においてＰＤＣＡサイクルを確実に実施するとともに、教育の質の向上に努め、学校評価アンケートにおける生徒・保護者の評価向上につなげる。	C	前年度とほぼ同程度の評価結果となっているが、いくつかの評価項目で改善を要する必要がある。特に、生徒の多様性に応じた指導が求められている。	教員が日々の授業を振り返り、授業実践力を向上させるとともに、生徒一人一人を見つめ、伸ばす教育を推進していくことができるよう努める。
組織運営	分校運営の強化	本校の伝統・特性を生かした魅力ある学校運営に努め、振興対策協議会との連携をより強化する。また、各種メディアを有効に活用し、全国募集を含め島内外の生徒へ学校の魅力をアピールし､入学生 35 名以上を確保する。 Ａ：35 名以上　Ｂ：34～33 名　Ｃ：32～31 名 Ｄ：30～29 名　Ｅ：29 名未満	E	マリンスポーツや地域と連携した行事など、魅力ある活動を実施することができた。また、オンライン説明会や個別相談会を実施し、県外から５名の志願者を得ることができたが、島内や今治市内からの志願者減により、目標を達成できなかった。	新型コロナウイルスの状況を適切に把握するとともに、本校の魅力ある活動を実施し、中学生にアピールすることができるように努める。次年度は、再編整備の基準として示されている 31 名以上の入学生を確保する。
	業務改善を通じた働きやすい職場づくり	機能的な組織づくりと校務支援システムの活用を通して、仕事の平準化と効率化を図り、超過勤務時間の削減に努める。	A	各課とも、組織的に業務遂行ができた。また、休暇取得推進週間の設定により、超過勤務時間の削減につながった。	次年度に向けて体制を見直すとともに、超過勤務時間の削減に向けた取組を引き続き実施する。

※評価は５段階（Ａ：十分な成果があった　Ｂ：かなりの成果があった　Ｃ：一応の成果があった　Ｄ：あまり成果がなかった　Ｅ：成果がなかった）とする。